

**[A年] 聖霊降臨日(2021年5月23日)**

**【旧約聖書日課】 ヨエル書2章23節～3章2節**

2 <sup>23</sup>シオンの子らよ。

あなたたちの神なる主によって喜び躍れ。  
主はあなたたちを救うために  
秋の雨を与えて豊かに降らせてくださる。  
元のように、秋の雨と春の雨をお与えになる。

24 麦打ち場は穀物に満ち

搾り場は新しい酒と油に溢れる。

25 わたしがお前たちに送った大軍

すなわち、かみ食らういなご  
移住するいなご、若いいなご  
食い荒らすいなごの  
食い荒らした幾年もの損害をわたしは償う。

26 お前たちは豊かに食べて飽き足り

驚くべきことを  
お前たちのために成し遂げられた主  
お前たちの神なる主の御名を  
ほめたたえるであろう。  
わたしの民は、とこしえに

恥を受けることはない。

27 イスラエルのうちにわたしがいることを

お前たちは知るようになる。  
わたしはお前たちの神なる主、  
ほかに神はいない。  
わたしの民は、とこしえに  
恥を受けることはない。

3 <sup>1</sup>その後

わたしはすべての人にわが霊を注ぐ。  
あなたたちの息子や娘は預言し  
老人は夢を見、若者は幻を見る。

2 その日、わたしは

奴隷となっている男女にもわが霊を注ぐ。

**【使徒書日課】 使徒言行録2章1～11節**

<sup>1</sup>五旬祭の日が来て、一同が一つになって集ま  
っていると、<sup>2</sup>突然、激しい風が吹いて来るよう  
な音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に  
響いた。<sup>3</sup>そして、炎のような舌が分かれ分かれ  
に現れ、一人一人の上にとどまった。<sup>4</sup>すると、

一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、  
ほかの国々の言葉で話しだした。

<sup>5</sup>さて、エルサレムには天下のあらゆる国から  
帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、  
<sup>6</sup>この物音に大勢の人が集まって来た。そして、  
だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されてい  
るのを聞いて、あっけにとられてしまった。<sup>7</sup>  
人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこ  
の人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。<sup>8</sup>どう  
してわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の  
言葉を聞くのだろうか。<sup>9</sup>わたしたちの中には、  
バルティア、メディア、エラムからの者がおり、  
また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポ  
ントス、アジア、<sup>10</sup>フリギア、パンフィリア、エ  
ジプト、キレネに接するリビア地方などに住む  
者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、  
<sup>11</sup>ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もお  
り、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、  
彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っ  
ているのを聞こうとは。」

**【福音書日課】 マタイによる福音書12章14～21節**

<sup>14</sup>ファリサイ派の人々は出て行き、どのように  
してイエスを殺そうかと相談した。

<sup>15</sup>イエスはそれを知って、そこを立ち去られ  
た。大勢の群衆が従った。イエスは皆の病気を  
いやして、<sup>16</sup>御自分のことを言いふらさないよ  
うにと戒められた。<sup>17</sup>それは、預言者イザヤを通  
して言われていたことが実現するためであった。

18 「見よ、わたしの選んだ僕。

わたしの心に適った愛する者。

この僕にわたしの霊を授ける。

彼は異邦人に正義を知らせる。

19 彼は争わず、叫ばず、

その声を聞く者は大通りにはいない。

20 正義を勝利に導くまで、

彼は傷ついた葦を折らず、

くすぶる灯心を消さない。

21 異邦人は彼の名に望みをかける。」

「聖書協会共同訳」(2018年版)読み比べ

ヨエル書2章23節～3章2節

2 23シオンの子らよ、楽しみ、喜べ

あなたたちの神、主によって。  
 主は義に従って秋の雨を与えてくださった。  
 かつてのように、雨を降らせてくださった  
 秋の雨と春の雨を。

24 麦打ち場は麦で満ち

搾り場は新しいぶどう酒と  
 新しいオリーブ油で溢れた。

25 私があなたがたに送った大軍

すなわち、群がるばった  
 若いばった、食い荒らすばった  
 そして食らうばったが食い荒らした歳月を  
 あなたがたに償おう。

26 あなたがたは豊かに食べて満ち足り

あなたがたの神、主の名をほめたたえる。  
 主はあなたがたのために奇しき業を行われた。  
 私の民はとこしえに辱められることはない。

27 あなたがたは

私がイスラエルのただ中にいることを  
 知るようになる。  
 私は主、あなたがたの神であり  
 ほかに神はいない。  
 私の民はとこしえに辱められることはない。

3 1その後

私は、すべての肉なる者にわが霊を注ぐ。  
 あなたがたの息子や娘は預言し  
 老人は夢を見、若者は幻を見る。

2 その日、男女の奴隷にもわが霊を注ぐ。

使徒言行録2章1～11節

1五旬祭の日が来て、皆が同じ場所に集まっ  
 ていると、2突然、激しい風が吹いて来るよう  
 な音が天から起こり、彼らが座っていた家中  
 に響いた。3そして、炎のような舌が分かれ  
 分かれに現

れ、一人一人の上にとどまった。4すると、一  
 同は聖霊に満たされ、霊が語らせるままに、  
 他国の言葉で話した。

5さて、エルサレムには天下のあらゆる国  
 出身の信仰のあつい人々〔異本→ユダヤ人〕  
 が住んでいたが、6この物音に大勢の人が  
 集まって来た。そして、誰もが、自分の故  
 郷の言葉が話されているのを聞いて、あ  
 っけにとられた。7人々は驚き怪しんで言  
 った。「見る、話をしているこの人たちは、  
 皆ガリラヤの人ではないか。8どうして、  
 それぞれが生まれ故郷の言葉を聞くのだ  
 ろうか。9私たちの中には、パルティア、  
 メディア、エラムからの者がおり、また、  
 メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、  
 ポントス、アジア、10フリギア、パン  
 フィリア、エジプト、リビアのキレネ側  
 の地方に住む者もいる。また、滞在中の  
 ローマ人、11ユダヤ人や改宗者、クレ  
 タ人やアラビヤ人もいるのに、彼らが私  
 たちの言葉で神の偉大な業を語っている  
 のを聞こうとは。」

マタイによる福音書12章14～21節

14ファリサイ派の人々は出て行き、どの  
 ようにしてイエスを殺そうかと相談した。

15イエスはそれを知って、そこを退か  
 れた。大勢の群衆が付いて来たので、彼  
 らを皆癒して、16ご自分のことを言  
 い触らさないようにと戒められた。17  
 これは、預言者イザヤを通して言われ  
 たことが実現するためであった。

18 「見よ、私の選んだ僕

私の心が喜びとする、私の愛する者を。

この僕に私の霊を授け

彼は異邦人に公正〔直訳→裁き〕を告げる。

19 彼は争わず、叫ばず、

その声を大通りで聞く者はいない。

20 公正を勝利に導くまで、

彼は傷ついた葦を折ることもなく

くすぶる灯心の火を消すこともない。

21 異邦人は彼の名に望みを置く。」

**黙想のためのノート****次主日聖書日課について**

・5月23日「聖霊降臨日」の日課主題は「聖霊の賜物」。「聖霊降臨日」は、伝統的に聖書の記述に従って「五旬祭(ペンテコステ)」と呼ばれてきたが、これは、ユダヤ教の「七週祭」のギリシア語表現。「復活祭」がユダヤ教の「過越祭」の再解釈としてキリスト教会の中で位置づけられてきたように、「七週祭」の再解釈として「五旬祭」が位置づけられてきた。

・ユダヤ教の三大祭(過越祭、七週祭、仮庵祭)は、出エジプト物語に基づく伝承を記念する祭として「律法」で規定されているが、背景には季節ごとの農耕祭が含まれており、「過越祭」と「七週祭」にはそれぞれ、「除酵祭」および「刈り入れの祭」の呼称がある。

・「七週祭」の出エジプト伝承に基づく位置づけは、エジプトを出たモーセ率いる民が「三月目のその日」(出 19:1)にシナイ山に到着し、シナイ山に登ったモーセを通して律法を授与され、「律法の民」である「イスラエル」が成立したことを記念する「律法授与記念」にある。これを、初代教会は、天に上げられた主イエスを通して聖霊を授与され、「聖霊の民」である「教会」が成立したとする「聖霊授与記念」として再定義した。

**旧約日課(ヨエル 2~3章より)**

・「ヨエル書」は、ユダヤ教正典「後の預言者」の中「十二小預言者」の第二番目に置かれた預言書。「ヨエル書」には預言者の時代を表示する標題が含まれないが、その編集年代を、歴史批評の立場を取る旧約学者らは、「十二小預言書」の中でも後期の前5世紀後半、バビロン捕囚から解放されユダヤ帰還・エルサレム神殿再建が始まって1世紀ほど経った時代、正典「律法と預言者」の編集編纂がなされた時代と見ているが、それは、「ヨエル書」にペルシア支配時代に浸透したと考えられる黙示文学表現が見いだされることなどから判断されたことである。

・日課箇所は、章立ての区切りを挟んで設定されている。区切りは、一般に「ヨエル書」全体の区分としても扱われ、前半(1~2章)は「主の日」における裁きと罪の償いの勧告を、後半(3~4章)は「主の日」における回復と主の来臨が告げられている、と説明される。しかし、日課箇所がこの区切りを越えて設定されているように、内容的に明確に区分されるものではない。

・3:1「夢を見る」の「夢(ハーラム)」は、「創世記」や「ダニエル書」などで啓示の一種として積極的に描かれるが、「申命記」や「預言者」では否定的な見方が強い(申命記 13:2 以下、エレミヤ 23:25~28 等参照)。

・日課箇所の後半(3:1~2)以下は、新約「使徒言行録」が物語る「聖霊降臨」の日にペトロが人々の前で語ったとされる説教の中で真っ先に引用されているように(使徒 2:16~21)、初代教会において「聖霊降臨」の聖書典拠として解釈されるようになった。

**使徒書日課(使徒 2章より)**

・日課箇所は、「聖霊降臨日」に記念される出来事を物語として伝える新約中唯一の箇所であり、「聖霊降臨日」に必ず日課として設定されている。伝統的な聖書日課では、「旧約日課(第一朗読)」に相当する日課として設定されるのが通例である。

・「使徒言行録」は、「ルカ福音書」の続巻として編集されており、物語としての連続性のみならず、神学主題の一貫性を有しており、「ルカ福音書」が宣教する主イエスに導かれる弟子たちを描くものに対して、「使徒言行録」は聖霊に導かれて宣教する弟子たちが描かれる。「ルカ福音書」末尾および「使徒言行録」冒頭で繰り返される「主イエスの昇天」の出来事描写で明示されているように、「使徒言行録」における「聖霊」は明らかに、「ルカ福音書」における「主イエス」に代わる役割を負っている。ただし、「ヨハネ福音書」(14~16章)では明確に「主イエスの代役」として「聖霊」が位置づけられるものに対して、「ルカ・使徒言行録」では、主イエスの誕生物語が置かれることによって、「主イエス」自身も「聖霊」の働きの中に置かれており、両者は厳密に対等な関係として整理されてはいない(つまり、必ずしも「三位一体」教理に整合していない)。

・「使徒言行録」における「聖霊降臨」は、弟子たちの集まりを大前提としており、その意味で「教会」論としての「聖霊降臨」であって、「信仰」論として個人的な「聖霊降臨」を描いているわけではない。「炎のような舌」として描かれる「聖霊」が「一人一人の上にとどまった」とする描写も、前提として「一つになって集まっている」ことや「聖霊」が「分かれ分かれになって」各自に分配されるという描写が伴うように、パウロ的な「聖霊賜物論」(I コリ 12 章など)の構図から解釈される。

・4 節「ほかの国々の言葉で話した」は、3 節の「舌(グロッサー)」が用いられた表現で、直訳すれば「異なる舌で(ヘテライス・グロッサイス)話し出した」であるから、語義どおり読めば4 節の表現は「霊に満たされた者たち一人一人が、それぞれの舌で語り出した」と解釈される。ところが、「グロッサー」を原意の「舌」ではなく「言語／異言」と解する用法(パウロなどが多用。I コリ 14 章など)や、5 節以下の描写に影響されて、「ほかの国々の言葉」と訳される伝統が生まれた。解釈上、注意が必要な箇所である。

・「聖霊」の「霊」の原語は「プネウマ」で、2 節「風」と訳されている「プノエー」とは同根語。「聖霊」を「風」に譬えることは、ヨハネ 3:8 にも見られるように一般的。一方、日課箇所中では、3 節「ような(ホースペル)」や4 節「ような(ホーセイ)」など比喩であることを示す表現を用いて、聖霊降臨の出来事を描写している。「霊」は実体的な特定がされないまま比喩的に示唆される存在であり、特に神に由来する「聖霊」については、人の手中に収まる実在物のひとつとして解釈されないような注意が払われている。

## 福音書日課(マタイ 12 章より)

・日課箇所は、12 章冒頭からある安息日の出来事として場面設定される中で、主イエスとファリサイ派の人々との対論が伝えられる一部。同様の場面設定は「マルコ福音書」(2:23 以下)および「ルカ福音書」(6:1 以下)にも並行するが、日課箇所 17 節以下は「マタイ福音書」独自の旧約預言による解釈を提示する箇所である。預言者(書)の名を明示して、預言の「実現」を立証しようとするのは、「マタイ」の定型表現。  
 ・18~21 節の引用は「イザヤ書」42:1~4 から。ただし、既知の「ヘブライ語聖書」および「七十人訳(ギリシア語旧約)聖書」のいずれにも一致せず、両書を適宜引用しているものと考えられている。

## 来週の誕生日 (5 月 23 日~29 日)

## 主日礼拝の讃美歌から

- ・21-343 番「聖霊よ降りて」(= I 499 番)は、19 世紀米国メソジスト教会の牧師ストークスの作詞。曲は、日本のメソジスト派讃美歌集『譜附基督教聖歌集』(1884 年)の編纂に際して依頼して作曲された。
- ・21-417 番「聖霊によりて」(= ㊦95 番、㊨31 番「みたまによりて」)は、おそらく 1960 年代にルター派の P. ショルテスによって青年伝道用に作詞作曲された讃美歌。収録歌集にはギターコードが付されている。
- ・21-18 番「心を高くあげよ！」(= II 1)は、コロサイ 3:1~4 に基づく伝統的な聖餐祈禱冒頭の「スルスム・コルダ SURSUM CORDA」(「心を高く上げなさい」との呼びかけに対して、「わたしたちは心を高く上げます」と応答)に基づく讃美。作詞者バトラーは 19 世紀英国教会の司祭で、自分が校長として勤める学校の讃美歌集のために作詞。作曲者スミスは 20 世紀米国聖公会の司祭。
- ・21-346 番「来たれ聖霊よ」は、19-20 世紀英国教会のランダフ主教ティモシー・リーズの作詞。聖霊降臨を共同体の出来事として歌う。曲は、20 世紀英国教会司祭で王立教会音楽学校のチャプレンであったテイラーの作曲。564 番でも組み合わせられている。

## 21-343「聖霊よ、降りて」=I499

## Hover o'er me, Holy Spirit

1. Hover o'er me, Holy Spirit, / Bathe my trembling heart and brow; / Fill me with Thy hallowed presence, / Come, oh, come and fill me now.

[Refrain]: Fill me now, fill me now, / Holy Spirit, fill me now; / Fill me with Thy hallowed presence, / Come, oh, come, and fill me now.

2. Thou canst fill me, gracious Spirit, / Though I cannot tell Thee how; / But I need Thee, greatly need Thee, / Come, oh, come and fill me now. [Refrain]
3. I am weakness, full of weakness, / At Thy sacred feet I bow; / Blest, divine, eternal Spirit, / Fill with pow'r, and fill me now. [Refrain]
4. Cleanse and comfort, wholly save me, / Bathe, oh, bathe my heart and brow; / Thou dost sanctify and seal me, / Thou art sweetly filling now. [Refrain]

## 21-417「聖霊によりて」

## We are One in the Spirit

1. We are one in the Spirit, we are one in the Lord.  
We are one in the Spirit, we are one in the Lord.  
And we pray that all unity may one day be restored,  
and they'll know we are Christians by our love, by our love.  
Yes, they'll know we are Christians by our love.
2. We will walk with each other, we will walk hand in hand.  
We will walk with each other, we will walk hand in hand.  
And together we'll spread the news that God is in our land,  
and they'll know we are Christians by our love, by our love.  
Yes, they'll know we are Christians by our love.
3. We will work with each other, we will work side by side.  
We will work with each other, we will work side by side.  
And we'll guard each man's dignity and give up all our pride,  
and they'll know we are Christians by our love, by our love.  
Yes, they'll know we are Christians by our love.
4. So all praise to the Father from whom all things come.  
And all praise to Christ Jesus, His only Son.  
And all praise for the Spirit who makes us one.  
and they'll know we are Christians by our love, by our love.  
Yes, they'll know we are Christians by our love.

## 21-18「心を高くあげよ！」

## Lift Up Your Hearts! We Lift them, Lord, to Thee

1. 'Lift up your hearts!' We lift them, Lord, to thee; / here at thy feet none other may we see: / 'lift up your hearts!' E'en so, with one accord, / we lift them up, we lift them to the Lord.
2. Above the level of the former years, / the mire of sin, the slough of guilty fears, / the mist of doubt, the blight of love's decay, / O Lord of light, lift all our hearts to-day.
3. Above the swamps of subterfuge and shame, / the deeds, the thoughts, that honour may not name, / the halting tongue that dares not tell the whole, / O Lord of truth, lift every Christian soul.
4. Lift every gift that thou thyself hast given: / low lies the best till lifted up to heaven; / low lie the bounding heart, the teeming brain, / till, sent from God, they mount to God again.
5. Then, as the trumpet-call in after years, / 'Lift up your hearts!' rings pealing in our ears, / still shall those hearts respond with full accord, / 'We lift them up, we lift them to the Lord!'

## 21-346「来たれ聖霊よ」

## Holy Spirit, ever living

1. Holy Spirit, ever living / as the Church's very life; / Holy Spirit, ever striving through her in a ceaseless strife; / Holy Spirit, ever forming / in the Church the mind of Christ; / thee we praise with endless worship / for thy fruits and gifts unpriced.
2. Holy Spirit, ever working / through the Church's ministry; / quickening, strengthening and absolving, / setting captive sinners free; / Holy Spirit, ever binding / age to age, and soul to soul, / in a fellowship unending / thee we worship and extol.